

保証規定

1. 保証内容

表面の保証期間内に正常な使用状態で不具合が生じた場合は、本保証書をバッテリーお買い上げ店（通信販売、インターネット販売等含む）へバッテリーとともにご提示ください。製品を調査した上で、お買い上げ機種または、お買い上げ機種相当品と交換させていただきます。それ以外の責はご容赦ください。この場合の保証期間は、最初のお買い上げの日から累積起算とします。ただし、下記の適用除外事項に該当する場合は対象外となります。

2. 適用除外事項（下記の場合は保証対象外です。）

- （1）お買い上げ店（通信販売、インターネット販売等含む）以外のお店に保証を依頼した場合。
 - （2）保証書の提示がない場合、または必要事項が記入されていない場合。
 - （3）天災・火災・海難・動乱などによる故障の場合。
 - （4）トヨタ系ハイブリッド車補機以外の用途に使用したり適合外の自動車に使用した場合。
（例）a. 自動車のエンジン始動に使用した場合。
b. 自動車以外の機械の始動に使用した場合。
c. 非常用電源を目的として使用した場合。
d. 外国製自動車に使用した場合。
e. アイドリングストップ車に使用した場合。
 - （5）手入れ不十分、使用者の過失または事故によって生じたと認められる場合。
（例）a. ㊦端子を逆に接続して充電した場合。
b. 補充電時に過充電したり、放電状態のまま放置させた場合。
c. 交換や日常点検時に電槽、ふた、または端子を変形・破損させた場合。
d. 交通事故による破損、故障、機能低下の場合。
e. 雨水や洗車時の水の浸入により液漏れが生じた場合。または水没させた場合。
f. 車両搭載のまま長期間使用せず、コンピュータメモリ負荷（暗電流）により放電した場合。
g. バッテリー本体に修理、改造を加えている場合。
 - （6）使用上の酷使または自動車自体の原因による場合。
（例）a. レギュレータの設定電圧が基準枠を越え、過充電となった場合。
b. 自動車の電装品などの故障・欠陥により生じた場合。
c. バッテリーの搭載位置、サスペンション、充電装置などに改造が加えられた車両で使用された場合。
d. 標準装備以外で過負荷になる電装品を自動車に取り付けて使用した場合。
 - （7）不具合の発生したバッテリーを搭載した車両のチェックができない場合。
 - （8）補充電により回復するもの。（充電により回復した場合の充電代は有料となります。）
 - （9）自動車を譲渡された等により保証書記載のバッテリーの購入者と所有者が一致しない場合。保証書記載の車両以外の自動車に搭載された場合。
 - （10）取扱説明書記載の指示どおりに取扱わなかった場合。
- 3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。**

4. 3 取付金具・ケーブル端子の緩み・接続ケーブルの外観点検

(1)取付け金具の点検

バッテリーが取付け金具でしっかり固定されているか点検してください。緩んでいる場合はバッテリーがしっかり固定されるまで、取付け金具のナットを締めなおしてください。

(2)ケーブル端子の緩み・接続ケーブルの点検

バッテリー端子と車両側のケーブル端子との接続が緩んでいる場合は、しっかり固定されるまでケーブル端子のナットを締めなおしてください。接続ケーブルが擦り切れたり、亀裂がないか確認してください。

4. 4 車両を長期間使用しない時の処置

車両を長期間使用しない場合は、3.3 項「古いバッテリーの取外し」に従ってバッテリーを車両から取外して風通しのよい火気のない屋内に保管し、端子電圧 12.6V 以下を目安として 5.2 項「回復充電」に従って補充電を行ってください。バッテリーを接続したままにすると、時計やコンピュータのバックアップに少しずつ電気を消費しますので、車載のまま保管する場合もバッテリーの㊦端子から車両のケーブル端子を外しておくことをおすすめします。ただし、バッテリーの接続を外しますと、車両のメモリー機能が消去されますのでご承知おきください。

5. 2. 1 充電方法

自動車用密閉形バッテリー対応充電器を使用するか、指定の充電条件（充電電流、充電時間）を守ってください。

(1)補充電前にバッテリーの電圧を測定してください。

(2)測定した電圧により、バッテリーの要項表の充電電流以下で充電してください。

開放電圧	充電時間
12.6V 以上	充電不要
12.6 ～ 12.4V	2 ～ 4 時間
12.4 ～ 12.2V	4 ～ 6 時間
12.2 ～ 12.0V	6 ～ 8 時間
12.0 ～ 11.8V	8 ～ 10 時間
11.8V 以下	10 時間

- (3)充電器の電源と電流調整ツマミが OFF（切）になっていることを確認し、充電器の電源コードをコンセントに差し込んでください。
充電器に電圧の切替スイッチがある場合には、充電するバッテリーの公称電圧と同じ電圧に設定してください。
2 個のバッテリーを同時に充電する場合は、24V 用の充電器を使用して直列に接続してください。
- (4)㊦充電クリップをバッテリーの㊦端子に、次に㊦充電クリップをバッテリーの㊦端子に確実に接続してください。タイマー付きの場合は、充電時間を充電器の取扱説明書に従って設定してください。
- (5)充電器の電源を ON（入）にしてください。次に、電流調整ツマミを回して充電電流をバッテリーの要項表の充電電流以下の値に調整してください。
- (6)電圧計をお持ちの場合には、充電中に端子電圧が 15.0V 以上になっていることを確認してください。
- (7)充電終了後には充電器の電流調整ツマミを OFF（切）にし、次に充電器の電源を OFF（切）にしてください。
- (8)バッテリーの㊦端子から㊦充電クリップを外し、その後㊦充電クリップを取外してください。
- (9)充電器の電源コードをコンセントから外してください。
- (10)バッテリーの外観が汚れている場合には、水洗いするか湿った布で清掃してください。

6. 使用済みバッテリーの処置

⚠ 危険

- 使用済みバッテリーは、まだ電気エネルギーが残っています。金属工具などでバッテリーの㊦端子と㊦端子とをショートさせたり、火気を近づけたりしないでください。スパークにより引火爆発や火災の原因となります。
- 使用済みのバッテリーは、子供などが手を触れない場所に保管してください。電解液の付着により失明ややけどの原因となります。
- バッテリーを分解、改造、破壊しないでください。液漏れ、爆発などの原因及び失明、火傷の原因となります。

⚠ 警告

- 使用済みバッテリーを横倒しのまま保管しないでください。電解液の流出により周囲を腐食または汚染するほか、漏電し火災の原因となります。

⚠ 注意

- 使用済みのバッテリーは原材料をリサイクルします。そのまま破棄せず、新しいバッテリーを購入されたお店にご相談ください。

5. バッテリー放電時の処置

車両のライトなどの消し忘れや車両を長期放置したりした場合には、バッテリーが放電してエンジン始動が困難になることがあります。このような場合の緊急処置は次の事項に注意して行ってください。

5. 1 ブースターケーブルによるエンジン始動

⚠ 危険

- 救援車を依頼してブースターケーブルでエンジンを始動させる場合には、車両の取扱説明書に従い正しい手順で行ってください。その他の方法では絶対に行わないでください。取扱いを誤ると、破裂（爆発）や車両損傷の原因となります。
- 火気を近づけないでください。バッテリーから発生する水素ガスに引火爆発する原因となります。
- 保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーの電解液によって、失明、火傷の原因となります。

⚠ 警告

- ブースターケーブルの取付け、取外し時には、救援車のエンジンを止めてください。ケーブルや衣服などが冷却ファンに触れたり、ベルトに巻き込まれて、けがの原因となります。
- ケーブル接続の際は、バッテリーの㊦端子と㊦端子をケーブルクリップでショートさせないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となります。
- 救援車のバッテリーは、バッテリーあがり車と同じ電圧（12V 仕様か、24V 仕様かを確認）で同等の性能ランクのバッテリーを使用してください。破裂（爆発）の原因になる恐れがあります。
- ブースターケーブルはバッテリーの性能ランクに適したものを使用し、ブースターケーブルに、破損および腐食などの異常がないことを点検してください。ケーブル焼損の原因になる恐れがあります。
- ケーブルクリップは、緩みがないようにしっかりと固定してください。
- 救援車とバッテリーあがり車の車体を接触させないよう注意してください。

5. 2 バッテリーの回復充電（補充電）

⚠ 危険

- 充電器でバッテリーを充電する場合には、充電器に添付の取扱説明書に従い正しい手順で行ってください。取扱いを誤るとバッテリーの引火爆発の原因となります。
- 充電する際には、火気を絶対に近づけずに風通しの良い場所で行ってください。バッテリーから発生する水素ガスに引火爆発する原因となります。
- 充電器の電源が ON（入）の状態、充電クリップをバッテリーに接続しないでください。スパークが発生して引火爆発の原因となります。
- 充電中に充電クリップの取外しは、絶対にしないでください。バッテリーの引火爆発の原因となります。
- 充電器に電圧の切替スイッチがある場合には、充電するバッテリーの電圧に設定してください。誤った電圧で充電すると充電器の過熱、発火やバッテリーの引火爆発の原因となります。また、有毒ガスが発生する恐れがあります。
- 急速充電は絶対に行わないでください。



⚠ 警告

- バッテリーを車両から取外して充電する際には、3 項「バッテリー交換時の取扱い」に従って取外し、取付けを行ってください。手順を誤ると引火爆発の原因となります。
- バッテリーを車両に搭載したままでの充電は、引火爆発や車両・機器損傷の原因となります。やむを得ず、車両に搭載したままで充電する場合には、バッテリーに接続されている車両側の㊦ケーブル端子を取外してください。
- 充電器に接続する際には、㊦充電クリップをバッテリーの㊦端子に、次に㊦充電クリップをバッテリーの㊦端子にしっかりと接続してください。逆に接続すると、引火爆発や車両・機器損傷の原因となります。
- 充電電流はバッテリーの要項表の充電電流以下に設定してください。充電電流が過大な場合には、引火爆発の原因となります。また、有毒ガスが発生する恐れがあります。

⚠ 注意

- 充電時にはバッテリーから発生するガスが拡散しやすいようにしてください。

■バッテリーの寿命

寿命とは、使用中にその容量が低下してきた状態をいいます。

★寿命は、自動車の使い方や点検保守の頻度などで変わってきます。

(例)●自動車の使用頻度（走行距離が少なくても、多くても影響される）

- 充電不足の状態（エアコン、オーディオなどの電気機器の使用頻度が多い）
（ファンベルトの緩み）
（オルタネータの故障）
（バッテリーの端子締付け部の緩み）

●保守の不備（ランプの消し忘れなどによりバッテリーあがりを起こした場合）

★バッテリーの寿命末期には、エンジンがかからない場合やシステムが起動しない現象が現れる可能性があります。

これらの現象が現れた場合には、5.2 項によりバッテリーを補充電してください。

補充電しても性能が回復しない時は、バッテリーの交換をおすすめします。

要 項 表

公称電圧 12V

型 式	※充電電流 (A)
S 34 B 20 R	2.8 以下
S 46 B 24 R	3.5 以下

※製品型号は、業界の慣例として JIS に準拠した表記としていますが JIS の性能基準を保証するものではありません。

※5.2 項「バッテリーの回復充電（補充電）」のための充電電流の目安です。

エナジーウィズ株式会社



当社 WEB サイトはこちら

製品に関する問い合わせは、下記にご連絡ください。
エナジーウィズ自動車電池コールセンター
TEL：0120-513-573（フリーダイヤル 携帯電話可）
（受付：月～金（年末年始、GW、夏季休業等を除く）9 時～17 時 30 分）
〒369-0297 埼玉県深谷市岡 2200
製品情報は下記サイトでご確認いただけます。
<https://www.energy-with.com>
※製品不具合や保証に関するお問い合わせは、お買い上げ店にご相談ください。